

新世代奉仕部門の正副委員長会議が、2011年10月8日(土)に大阪科学技術センター 中ホールにおいて、岡部泰鑑ガバナー、大谷透新世代奉仕担当パスト・ガバナー、矢橋弘嗣ガバナー補佐、境高彦代表幹事、西上博幸研修委員のご出席を頂き、青少年活動委員会、各クラブの新世代奉仕部門担当をあわせ78名の参加にて開催されました。

ガバナーから、5番目の奉仕部門として独立した形で、名称も新たにした奉仕活動として、30歳までの若者に、ロータリアンとして接してゆく姿勢、また地区としての取り組みについてのお話を頂き、委員長より、この会議の趣旨や地区の青少年活動委員会がどのような理念の下、ライラやニコニコキャンプを主催しているかを話した上で、協議に入りました。

各クラブには事前に

1. 新世代奉仕が追加されクラブ内での扱いは変わったか
2. クラブにおける青少年活動事業の実施したものの、計画したものを教えてください
3. 地区委員会へのご意見を

という3つの項目でアンケートを実施いたしました。

変化に関しては、これまででも取り組んでいて、変化無く取り組むという回答が多かったのですが、これを機に、新世代奉仕委員会を新設されたクラブも複数あり、重要なプログラムであるという認識が広まりつつあるという回答や、クラブの奉仕事業全体の名称を新世代奉仕とされたクラブもありました。

地区委員会へのご意見として、子どもを虐待などから守る取り組みはないのか、新世代奉仕を積極的に行うために、ロータリーが直接係わる青少年の意識調査の資料がほしい、事業活動の実例がほしい等の意見が寄せられました。事業例の紹介では、各クラブが多くすばらしい奉仕活動を行っておられる中から、5つのクラブに発表して頂きました。

まず大阪フレンドRCより宮城県気仙沼の中でも孤立感が強い大島へ、子どもから子どもへ心のこもったプレゼントを行うプロジェクトの実施を予定されておられることが発表され、大阪難波RCからは、昨年のライラをホストし、つながりの出来た、関西大学の学生80名について7月と8月にボランティアとしての派遣を企画し同行された実例を直に見ることで、自然の力の強大さ、現地の方の復興に向けた力強さ

を感じたことなど、若者が感じ取ったことなどを発表されました。この試みは、11月にも計画していることもお聞きしました。八尾RCからは、市内小中学校15校の児童生徒会の代表3名ずつのリーダー研修への協力を長年つづけておられることや、不登校児の野外活動を企画し、30名程度の児童中に数名の不登校児を参加させる取り組みをされ、これらの児童が次学期から登校されるようになったという報告もされました。また、新任の教師71名への講話など多くの取り組みが紹介されました。東大阪RCからは、突然の指名にもかかわらず、RACの活動支援やフォーラム開催のお話を、大阪東RCからは、世界各国からの留学生による200名の聴衆を集めたスピーチコンテストを開催したお話を頂きました。2011年7月30日から8月1日に吹田江坂RCのホストで行われた、ニコニコキャンプが、成功裏に終わられたことも報告されました。

最後に大谷新世代奉仕担当パスト・ガバナーより講評を頂き閉会いたしました。

アンケートにご協力頂いた皆様、ご参加頂いた皆様に感謝して、報告といたします。